

魚津市行財政改革推進委員会 第4回会議 会議録（要旨）

【開催状況】

- 1 開催日時 令和元年7月8日（月）19:00～21:00
- 2 開催場所 魚津市役所4階 第1・第2委員会室
- 3 出席者
 - (1) 委員等
古田会長、西田委員、石川委員、濱多委員、若林委員、伊藤委員、野澤委員、平田委員、岡崎委員、大野委員、滝オブザーバー
(欠席) 大崎委員
 - (2) 市当局
村椿市長、四十万副市長、畠山教育長、川岸企画総務部長、矢田民生部長、武田産業建設部長、富居議会事務局長、広田上下水道局次長、南塚教育委員会次長、赤坂企画政策課長、宮崎総務課長、村田財政課長、武田税務課長

【関連資料】

- 資料 総括表
- 資料No.1 公債費の平準化
- 資料No.2 再編方針見直し（案）
- 資料No.3 使用料見直し（案）
- 資料No.4 2040 会議 第3回会議報告書

【会議内容】

- 1 開会
- 2 市長挨拶

（挨拶要旨）

会長をはじめ、委員の皆様にはお忙しい中ご参加いただき、誠にありがとうございます。行財政改革推進委員会も4回目を迎えました。前回委員会では、具体的な金額と、年次計画を示してほしいとのご指摘がありました。本日の資料には、年次計画、項目ごとの削減額についてふたつの案を示させていただいております。第1の案では、財政健全化の各項目の実施により、5億円の財源不足が埋まるような案となっております。第2の案では、公共施設の見直しや、職員の削減による効果をさらに上乘せした案となっております。どちらかの案を選んでほしいというわけではなく、計画を実施した場合の市民サービスへの影響等を考慮していただいたうえで、積極的にご議論いただきたいと思っております。そのうえで、各方策についての素案を作成し、8月に予定しております市民説明会にてご意見をいただいきたいと考えております。各計画の9月までの策定に向けて、全力で取り組んでまいりたいと思っております。皆さまにはどうか積極的な議論をいただきますよう、重ねてお願い申し上げます。

3 議題

(1) 財政健全化に向けた方策について

①公債費平準化

- ・今後のスケジュール等

②公共施設管理コスト縮減

- ・公共施設再編方針の見直し(案)【施設の存廃】
- ・使用料の見直し(案)
- ・魚津2040会議報告書(第3回)

(3) 次回の会議日程

【以下、質疑、意見等】

委員 今の魚津市は血が出ている。どうして血が出ているのか、どうやって血を止めるのか、そこから話をしないといけない。今後の公共施設の運用よりも、血を止める話を先にしないと、前に進まないと思う。公債費の平準化についても、借金をした自分たちが、自分たちで処理しないとどうするのか。市民説明会で、返済を先送りにする案を提示したところで、誰も賛成しないと思う。会議資料の作成より、根本的に、最初に決めなければならなかったことがあると思う。前回委員会において当局から、最初の年に5億円の達成は難しいという回答があったが、その考え方自体が駄目だと思う。それはやはり市長の本気度次第である。大変ではあるが、最初でできることをやって、そこから徐々に戻すことをしないといけない。施設の話ばかりではなく、血を止めることが絶対に必要だと思う。市役所の職員は、一生懸命仕事をしているかもしれないが、たとえばボーナスを調整してお金を生み出すなど、そのあたりで市長の本気度を出さないと、個人的に駄目だと思う。

この委員会においても、職員の方は説明はするが、何も答えない。市長も頷いてばかりではだめだ。決意を示さないと8月に市民説明会をする意味もないのではないかと。血を止めてからでないと前には進めない。やはり1年目で5億円達成するような方策を実施しないといけない。今回示された案も、事業主の立場からすれば生ぬるい。命を懸けてやっていない。結果を伴わなければやってないのと同じである。未来のことを考える前にやらなければならないことがあるでしょうと言いたい。

市長 委員がおっしゃるとおり、まずはしっかりとした姿勢を示せということだと思います。人件費について、今回2つの案をお示ししましたが、やり方としては、もっとたくさんの考え方や方法があります。ただし、どこまでやれるかということは現実問題として考えなければいけません。今お示ししている案は、決してぬるま湯のものではなく、しっかりと5億円、あるいは6億円を削減することを目標としたプランになります。ただし、もっと厳しくやれる部分があるのではないかと、という部分があるかと思っておりますので、その点についてご意見をいただきたいと思っております。本日資料としてお示した案を吞んでいただきたいというわけではなく、人件費の切込みや、公共施設の使用料などをもっとこうすればよい、というような意見を聞きたいと思っております。そのうえで、各項目について皆さんに納得してもらえる計画を作りたいというのが本日の会議の趣旨であります。

加えて、説明が悪かった部分があるかもしれませんが、公債費の平準化については、借金の先延ばしという意味だけではありません。これまで、借りたお金を早く返すという方向に注力しすぎていた面があり、お金の流れをきちんと整理したいという狙いがあります。バランスの取れた、借金の返済の仕方に変えるというのは、財政健全化の有効な手段の一つであり、他の自治体や、国、民間でも行われております。そうした取組みを通して、組織の体質を変えていくことが求められています。その点について、しっかりと説明をしながら、市民の方にもご理解をいただかないといけないと思っております。

委員 こうした会議を開催している以上、民間の感覚、民間の思いを汲み取っていかないといけない。市役所の考え方で話をしても噛み合わない。最初の年から5億円達成というのを考えていかないと、3年、4年かけては手遅れになってしまう。本気を出して命がけで取り組まないと計画はうまくいかない。そうでないと行財政改革の取組みの意義が薄れていくと思う。

委員 民間企業に勤める自分の立場からは、今の指摘について理解ができる。しかしながら、民間の企業人と公共団体の行政人は一緒にできない部分があることも理解している。今後の説明の方法として、強調して分かりやすく説明したほうが良いという部分もあるが、今日提示されたプランは、初期のものとしては非常にわかりやすいと思う。私としては、おおむねこのプランをベースにさせていただきながら、いかにこのプランを期日通りに実行していただけるか。委員の言う通り、初年度で5億円できればいいのかもしれないが、年度ごとの計画を達成しながら、5年間の中期計画として目標を達成していただくことを強く希望している。

委員 はじめから借金の先延ばしありきで話が進んでいる。いろいろな方策をやって、最後にお願ひされるのであれば分かるが、先延ばしありきでは話にならない。

委員 2040 会議の成果について。若い人から目から鱗という意見もあるが、中身については、借金よりも先の、未来の話というのが多い。これまで自分たち市民がやってきたことに対し、自分たちにも責任があるというのを知る必要があると思う。そう考えると、50~70 代の年代の人たちも交えたような会議も必要であったのではないかと。現在、なぜ財源不足に陥っており、今後どうすればよいのかについて、現実を見つめることが大事かなと思う。若い人は若い人の夢があるが、それ以前の問題でこういう会議をしている。これまで長い間行政と共に歩いてきた市民も、魚津市も作ってきたわけですから、そういう方たちからの意見をいただく場があればいいと思う。

会長 市の予算というのは、総合計画等に基づいて、市長をはじめとした執行部が長期の年次計画の下で、予算を作成し、それを議会に提案、承認され、執行に移されている。その結果として、負債が生じたのであれば、それは市民を含めた市全体の問題である。その成果がどうであったかということは、行政評価の部門での判断になる。

今回の委員会の性格として、みなさんの意見をしっかりうかがって、行財政改革の全体の方向性を示していく方針としたい。市の提案をもとに、各委員の考え方を、各分野の英知を結集してベストに近いもの考えるべきと思うが、いかがか。

委員 前回の委員会において委員から個別に提案があったが、それらの提案は、これから先の魚津市をどうしていくかという意見だったと思っている。2040 会議においても同じである。赤

字で大変だというときは、まず血をとめるということに全精力を傾けて、そこから次に進むことをやっていかないといけない。そうしないと魚津市の明日はないと思っている。計画を作って、委員からの了解を得て、駄目だった場合は誰が責任をとるのか。委員一人ひとりにも責任がある。

公共施設について、吉田グラウンドや、歴史民俗博物館は、他からいただいたものになる。こういった会議において存廃の話を進めていることについて、相手方に進捗を伝えているのか。

市長 今現在、直接、相手先の企業に考えを伝えてはいません。冒頭からの繰り返しとなりますが、今回お示した案どちらかを選んでほしいというわけではなく、資料をベースに、市民生活への影響を考えながら、どこまで切り込んでいくべきかというご指摘をいただきたいと思っております。

委員 職員数、採用人数を減らしているだけで、人件費圧縮という表現は使ってほしくない。

当局 血を止めるために、5億円の財源不足をなんとか早期に解決したいという案で取り組んでいます。公債費の平準化は、単なる先延ばしであり、それ以外の方策で5億円を達成すべきのご指摘かと思っております。今年度、全職員の給与カットも行い、なんとか早期に血をとめたいという思いで真剣に取り組んでおります。

また、単に職員数を減らしただけではいか、というご指摘もいただきましたが、市役所においては、対人サービスが多くを担っている現状があります。職員数を減らしたうえで、今まで通りのサービスを提供することには無理があり、十分に考えていく必要があります。毎年、予算を編成する際には目標額を掲げておりますが、もっと切り込んでやれることはないかというのは、絶えず検討していく必要があると思っております。厳しい意見は当局として受け止めるつもりですので、そういった趣旨で本日の資料をお示したところであります。

委員 血を止めるというのは、いまほど当局からの回答があった通りかと思う。魚津市は、公共施設の数が多ということで、施設の再編に取組み、可能なところから見直しを行うのが現実的で、人件費は最後かと思う。民間企業でも、経営が苦しくなった場合は、所有する遊休地を売却して、現金を手に入れる、無駄な施設を廃止して、それでも倒産する寸前となれば、人件費圧縮となる。市民サービスが低下する可能性も理解をいただきながら、まずは施設廃止を議論したらいいと思う。今回示された案で言うと、案②の方向性で進めてほしいと思う。

もう一点、総括表において特殊事情事業として挙げられている、統合小学校の市債償還額の増加について、償還期間は何年の予定か。

当局 学校関係の公債費については、政府資金として借りているので、おおむね20～25年で返済が完了します。金額については、1年あたり約1億円というのが続いています。東山企業用地の償還終了と入れ替わりとなり、同じくらいの負担が発生するというイメージで考えています。

委員 いままで返済のペースが早かったものを見直しすることで、現金を確保するというのは個人的にはおおむね賛成をしている。利用頻度が低く、収益性も低い施設に関しては、代替可能性を考慮したうえで休止をすることで、スクラップ&ビルドを徹底して、案②で進んでいけばいいと思う。

おがさわら 当局に確認したいが、現在で財政調整基金の残高はどうなっているか。

当局 残高は2億5千万になります。

オブザーバー 血を止めなければいけない、構造を変えなければいけない現状は明白です。一方で、行政は、福祉サービス、道路、ごみ収集等、市民生活に絶対に欠かせないサービスを担っているのも事実であり、大量に歳出を削ることは限界があります。歳出の急激な削減は不可能ではありませんが、市民生活に相当大きな影響を与えること、市の経済に対しても一定の影響を与えることは考慮しなければいけません。ふたつの案を見ると、額の差はあるが、いずれも令和2年度で財源不足の状態になっています。ここでマイナスとなってしまうと、魚津市が財政的に破綻してしまうのかということ、そうではありません。貯金が2億5千万円あるので、貯金を取り崩すことで、キャッシュフロー的にはぎりぎりであるが、財政は回ることになる。総括表を示していく中で、財政調整基金もあわせて記載しないと、市民の方から見た場合、完全に貯金が尽きたと思われる人もいると思う。貯金の残高を見せながら、ぎりぎりではあるが大丈夫ということをご理解いただかなくてはならない。

一方で、事務事業の見直し、各分野の補助金の見直しの時期に差し掛かってくると、相当議論になる。その際、市が行政改革を行っていて、行政も相当頑張っているという姿勢を見せないと、補助金をもらう側としては、順番が違おうと言いたくもなるし、市も説明責任を問われることになる。市もこれだけやっているけど、もう少し我慢してくれという言い方をしなければならぬ。

特殊事情事業について、交付税でのカバーが期待できる部分があるので、まったく純増というわけではないが、数字だけみれば、案①では足りないことは明白である。案②は貯金を勘案してギリギリ回ると思うが、案①の場合は突発的なことが起こると対応できない。いずれにしても、多方面で影響が生じる、相当厳しい提案とは思いますが、数字的にはそこが最低基準で、そこからどこまで踏み込むのか、委員の感覚を市としては聞きたいということだと思う。

委員 施設の使用料の値上げを行って、その先少しずつ戻す方向を示すとか、明るい話は今回の説明ではなかった。下げっぱなしではないということを書いていかなければいけない。

市長 総括表における、令和2年度の財源不足額5,100万円は、今年度職員の給与の臨時的削減額とほぼ同額です。仮にこの削減をもっとやるのか、あるいは事務事業の見直しなどで財源不足を縮めるような策を考えて進めていきたいと思っております。また、委員会での意見をいただくのと同様に、議会の皆さんにもプランを示して、意見をいただきます。そして、市民説明会の準備を進めていくこととなりますが、市民説明会については、事前にその内容を委員の皆様にもお知らせして、調整させていただきます。本日の会議のみをもって、後は任せてください、というつもりではないことをご理解いただきたいと思います。

委員 オブザーバーからの意見もあったとおり、今日示していただいたプランも、少しの揺らぎがあったら達成できないので、さらなる方策を考えなければならない部分はあると思う。また、市の財政が今の状況になったのは、すべて職員、市の責任とするのはいかがかと思う。管理側にもきちんとチェックしてこなかった流れがあって、現在の状況になっており、市の職員だけが悪者だという意見はどうかとも思う。

学びの森について、施設自体のハードのパワーに加え、今も旧洗足学園の卒業生が活動しているという、ソフトのパワーもある。この部分について、ただ廃止をするのであれば、パワーのストックの部分の失うことになるので、案②の方針を進めるのであれば考慮してほしいと思う。

委員 施設の存廃について、これらの施設を今後、民間の方が事業を担ってもらえるかという、なかなか難しいと思う。廃止により、施設がなくなるのは寂しいが、こうしないと前に進めないで状況であり、賛成する。廃止した後の議論もあるかとも思うが、まずはこれをやらないと先に進まないと思う。

委員 参院選のタイミングもあって、何かと話題が選挙だったり政治だったりするが、会話の中で、魚津市の財政状況が厳しいと言っても、周囲では危機感どころか関心すらない。来月の市民説明会では、生活実感のある方に、普段の暮らしにどういった影響があるかということ、行政の課題をうまく把握してもらう必要があるのではないかというのが意見です。

委員 案②の方向で進めてもらえればと思う。公共施設を廃止した場合、これまで蓄積してきた様々なストックの部分もあると思うが、現状として市のプラスになっているのかは別問題。プラスの部分はもちろんあると思うが、マイナスの部分があって、現状となっていると思う。行財政改革を進めていく中で、基金の積み立てや老朽化した施設の更新も必要だが、より魅力ある魚津市になるように挑戦していただければと思う。

委員 ある高齢者の方から、総合体育館が廃止され、今後ありそドームに行くとなるとこれまで以上の出費となる。70歳以上になると割引といった制度はないかと聞かれた。健康な体づくりについて、若い人にとっては趣味の問題と言えるかもしれないが、切実な問題でもある。施設の利用料金を上げて、みんなで頑張っていこうという話だと思うが、割引制度についても考慮してほしい。

会長 案②に近い形を標準として、案①と案②の間あたりをもって、市として考えてほしいというところが、委員会としての意見としてよろしいか。

委員 専門的な話はわからないが、5年間で目標を達成して、それからは夢のある魚津市について言っていないと、魚津市が沈んでいってしまう。夢のもてる部分も最後にはきっちり言ってほしい。

市長 本日の会議で、プランとして足りない部分をはっきりとしたと思います。特殊事情を含めて、財源の不足が見られるプランというのはありえないと思う。財政調整基金も含めて、少なくともこの5年間で財源不足はなくなるという計画をきちんとお示ししたいと思います。委員からの意見もあった通り、事業の見直しや施設利用料金の値上げなどで、市民の方に我慢していただく部分を、その先にどうなるのかを含めた展望が見えるようなプランとして、説明できるよう整理していきたいと思います。

ワグザバー 資料の中で具体的な案が示されているが、ひとつひとつをこの場で議論して結論を出すのは難しい。案①と案②は厳しさの度合いは違うが、公共施設再編によって総額1億円を生み出すのは、これくらいの厳しさであるということを委員の皆さんに見てもらうのが当局の狙いであったと思う。案①は最低限のところであって、案②を目指して具体的な部分を市の当局と議会の中で詰めていくということかと思った。その際、たとえば初年度の取組みの見せ方をどう考えるのかという問題もあり、また、使用料の中で高齢者への配慮も重要な視点である。いろんなご意見もあったので、当局でさらに案を練って、最終的には市民の皆さんの意見ももらうことにな

るが、その際には、委員会としてこれならいけるのではという後押しができればと思う。

委員 仕方がないのかなと思うが、市民ばかりに負担を負わせて、身を切る改革はないのかという人もいると思う。そうしないと市民の賛同は得られない。そのあたりは市長の腹ひとつである。

委員 「本気度」の考え方もいろいろあると思う。5年計画で確実なる結果を出していただくことでこそ本気度というものが伝わると思う。市の様々な中期計画について、これまでは、計画を作って一安心で、多くの場合その結果は理解できるものではなかった。今回こそ、財政テーマ、お金の問題なので背水の陣で臨まれると思うが、そこにこそ本気で、市役所一丸となって行うということを強く願います。

会長 これで会議を終了します。ご苦労さまでした。 (以上)